

2021 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツ学科		科目区分	その他	授業の方法	実習
科目名	トレーナー実習Ⅰ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	180 (6) 時間(単位)
対象学年	1年生		学期及び曜時限	前期	教室名	2校舎3階実技室
担当教員	山下 浩平	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
ストレッチの基本となる理論・動作を理解し、対象者の目的に応じたストレッチ指導法を習得する。						
《成績評価の方法と基準》						
1. 期末レポート:70% 2. 授業内課題:20% 3. グループワーク中の態度・発表:10%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
公認アスレティックトレーナー養成テキスト第1章「運動器の解剖と機能」						
《授業外における学習方法》						
毎日自身の身体と向き合い、ストレッチを実践すること						
《履修に当たっての留意点》						
筋肉の柔軟性・関節の可動域を保ち、健康的な身体の機能を保つために有効なストレッチ。各種スポーツ毎に疲労しやすい部位は違い、発生する傷害は違ってきます。それらを予防するためにもストレッチは有効です、しっかりと学習していきましょう。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	ストレッチ・身体構造そのものを理解する	公認アスレティックトレーナー養成テキスト第1章「運動器の解剖と機能」	毎日のセルフストレッチ 次週のストレッチ部位の 筋肉の予習	
		各コマにおける授業予定	ストレッチングの概要 筋の基本 反射の基本			
第2回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	ストレッチの種類を理解する	公認アスレティックトレーナー養成テキスト第1章「運動器の解剖と機能」	毎日のセルフストレッチ 次週のストレッチ部位の 筋肉の予習	
		各コマにおける授業予定	静的ストレッチとは 動的ストレッチとは			
第3回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	頸部後面・腰背部のストレッチを理解する	公認アスレティックトレーナー養成テキスト第1章「運動器の解剖と機能」	毎日のセルフストレッチ 次週のストレッチ部位の 筋肉の予習	
		各コマにおける授業予定	頸部・体幹周辺のストレッチ			
第4回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	肩関節前面・後面のストレッチを理解する	公認アスレティックトレーナー養成テキスト第1章「運動器の解剖と機能」	毎日のセルフストレッチ 次週のストレッチ部位の 筋肉の予習	
		各コマにおける授業予定	肩関節周辺のストレッチ			
第5回	演習実習形式	授業を通じての到達目標	前腕前面・後面、手関節周辺のストレッチを理解する	公認アスレティックトレーナー養成テキスト第1章「運動器の解剖と機能」	毎日のセルフストレッチ 次週のストレッチ部位の 筋肉の予習	
		各コマにおける授業予定	前腕・手関節周辺のストレッチ			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	演習を通じての到達目標	上半身を中心としたセルフストレッチを指導できるようになる		公認アスレティックトレーナー養成テキスト第1章「運動器の解剖と機能」	毎日のセルフストレッチ 次週のストレッチ部位の筋肉の予習
	各コマにおける授業予定	上半身のストレッチ 復習			
第7回	演習を通じての到達目標	股関節屈曲筋・伸展筋のストレッチを理解する		公認アスレティックトレーナー養成テキスト第1章「運動器の解剖と機能」	毎日のセルフストレッチ 次週のストレッチ部位の筋肉の予習
	各コマにおける授業予定	股関節周辺のストレッチ			
第8回	演習を通じての到達目標	膝関節伸展筋・屈曲筋のストレッチを理解する		公認アスレティックトレーナー養成テキスト第1章「運動器の解剖と機能」	毎日のセルフストレッチ 次週のストレッチ部位の筋肉の予習
	各コマにおける授業予定	大腿前面・後面周辺のストレッチ			
第9回	演習を通じての到達目標	下腿後面のストレッチを理解する		公認アスレティックトレーナー養成テキスト第1章「運動器の解剖と機能」	毎日のセルフストレッチ 次週のストレッチ部位の筋肉の予習
	各コマにおける授業予定	下腿周辺のストレッチ			
第10回	演習を通じての到達目標	下半身を中心としたセルフストレッチを指導できるようになる		公認アスレティックトレーナー養成テキスト第1章「運動器の解剖と機能」	毎日のセルフストレッチ 次週のストレッチ部位の筋肉の予習
	各コマにおける授業予定	下半身のストレッチ 復習			
第11回	演習を通じての到達目標	腰痛に対するストレッチを理解する		公認アスレティックトレーナー養成テキスト第1章「運動器の解剖と機能」	毎日のセルフストレッチ 次週のストレッチ部位の筋肉の予習
	各コマにおける授業予定	症状に応じたストレッチ①			
第12回	演習を通じての到達目標	肩こりに対するストレッチを理解する		公認アスレティックトレーナー養成テキスト第1章「運動器の解剖と機能」	毎日のセルフストレッチ 次週のストレッチ部位の筋肉の予習
	各コマにおける授業予定	症状に応じたストレッチ②			
第13回	演習を通じての到達目標	膝痛に対するストレッチを理解する		公認アスレティックトレーナー養成テキスト第1章「運動器の解剖と機能」	毎日のセルフストレッチ 次週のストレッチ部位の筋肉の予習
	各コマにおける授業予定	症状に応じたストレッチ③			
第14回	演習を通じての到達目標	全身くまなくストレッチ指導ができるようになる		公認アスレティックトレーナー養成テキスト第1章「運動器の解剖と機能」	毎日のセルフストレッチ 次週のストレッチ部位の筋肉の予習
	各コマにおける授業予定	総復習			
第15回	演習を通じての到達目標	まとめ 評価		公認アスレティックトレーナー養成テキスト第1章「運動器の解剖と機能」	毎日のセルフストレッチ 次週のストレッチ部位の筋肉の予習
	各コマにおける授業予定	まとめ 評価			

2021 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツ学科		科目区分	その他	授業の方法	実習
科目名	トレーナー実習Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	180 (6) 時間(単位)
対象学年	1年生		学期及び曜時限	前期	教室名	柔道場
担当教員	錠内 千佳江	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
筋肉の起始停止や作用を理解し、各部位のセルフストレッチを習得する。						
《成績評価の方法と基準》						
1. 実技テスト:70% 2. 授業内課題:20% 3. グループワーク中の態度・発表:10%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑥予防とコンディショニング						
《授業外における学習方法》						
自分自身や家族・実習先などでストレッチを実践する。						
《履修に当たっての留意点》						
ストレッチの実技も行うので、動きやすい服装の準備をお願いします。ストレッチは正しく行くと、怪我の予防・スポーツ現場でのアップやダウンにも有効です。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	演習を通じての到達目標	ストレッチの基礎知識を理解する。		公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑥予防とコンディショニング	授業で行ったストレッチを、実践し復習する。	
	各コマにおける授業予定	筋の起始停止・収縮伸張について				
第2回	演習を通じての到達目標	ストレッチの分類を理解する。		公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑥予防とコンディショニング	授業で行ったストレッチを、実践し復習する。	
	各コマにおける授業予定	静的ストレッチ動的ストレッチとは				
第3回	演習を通じての到達目標	股関節周りのストレッチ・解剖を理解する。		公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑥予防とコンディショニング	授業で行ったストレッチを、実践し復習する。	
	各コマにおける授業予定	股関節周りのストレッチ				
第4回	演習を通じての到達目標	膝関節周りのストレッチ・解剖を理解する。		公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑥予防とコンディショニング	授業で行ったストレッチを、実践し復習する。	
	各コマにおける授業予定	膝関節周りのストレッチ				
第5回	演習を通じての到達目標	下腿部のストレッチ・解剖を理解する。		公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑥予防とコンディショニング	授業で行ったストレッチを、実践し復習する。	
	各コマにおける授業予定	下腿部周りのストレッチ				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	演習を通じての到達目標	下半身のストレッチ指導をできるようになる。		公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑥予防とコンディショニング	授業で行ったストレッチを、実践し復習する。
	各コマにおける授業予定	下半身のストレッチのまとめ			
第7回	演習を通じての到達目標	体幹部のストレッチ・解剖を理解する。		公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑥予防とコンディショニング	授業で行ったストレッチを、実践し復習する。
	各コマにおける授業予定	体幹部のストレッチ			
第8回	演習を通じての到達目標	肩関節周りのストレッチ・解剖を理解する。		公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑥予防とコンディショニング	授業で行ったストレッチを、実践し復習する。
	各コマにおける授業予定	肩関節周りのストレッチ			
第9回	演習を通じての到達目標	前腕部・手関節周りのストレッチ・解剖を理解する。		公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑥予防とコンディショニング	授業で行ったストレッチを、実践し復習する。
	各コマにおける授業予定	前腕部・手関節周りのストレッチ			
第10回	演習を通じての到達目標	上半身のストレッチ指導をできるようになる。		公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑥予防とコンディショニング	授業で行ったストレッチを、実践し復習する。
	各コマにおける授業予定	上半身のストレッチのまとめ			
第11回	演習を通じての到達目標	動的ストレッチの分類を理解する。		公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑥予防とコンディショニング	授業で行ったストレッチを、実践し復習する。
	各コマにおける授業予定	ダイナミックストレッチとは バリスティックストレッチとは			
第12回	演習を通じての到達目標	グループでダウンメニューを作成する		公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑥予防とコンディショニング	授業で行ったストレッチを、実践し復習する。
	各コマにおける授業予定	グループ分け・ディスカッション			
第13回	演習を通じての到達目標	グループでダウンメニューを作成する		公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑥予防とコンディショニング	授業で行ったストレッチを、実践し復習する。
	各コマにおける授業予定	グループ内で指導練習			
第14回	演習を通じての到達目標	クラスメイトに向けてダウンメニューを指導する		公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑥予防とコンディショニング	授業で行ったストレッチを、実践し復習する。
	各コマにおける授業予定	クラス内で指導実践			
第15回	演習を通じての到達目標	講義テストの確認		公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト⑥予防とコンディショニング	授業で行ったストレッチを、実践し復習する。
	各コマにおける授業予定	講義テストの確認			

2021 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツ学科		科目区分	その他	授業の方法	実習
科目名	トレーナー実習Ⅲ		必修/選択の別	必修	授業回数(単位数)	180 (6) 時間(単位)
対象学年	1年生		学期及び曜時限	後期	教室名	2校舎3階実技室
担当教員	山下 浩平	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
解剖の復習＋触察練習						
《成績評価の方法と基準》						
1. 期末評価:70% 2. 授業内課題:20% 3. グループワーク中の態度・発表:10%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
公認アスレティックトレーナー養成テキスト第1章「運動器の解剖と機能」						
《授業外における学習方法》						
解剖学の復習						
《履修に当たっての留意点》						
触察は、トレーナーとして必要な評価やコンディショニングに直結します。 解剖学の知識の確認と並行して学習していきましょう。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	演習形式	授業を通じての到達目標	ASIS/PSIS/腸骨稜/仙骨/尾骨の触察	公認アスレティックトレーナー養成テキスト第1章「運動器の解剖と機能」	解剖学の復習	
		各コマにおける授業予定	骨盤帯周辺			
第2回	演習形式	授業を通じての到達目標	ASIS/PSIS/腸骨稜/仙骨/尾骨の触察	公認アスレティックトレーナー養成テキスト第1章「運動器の解剖と機能」	解剖学の復習	
		各コマにおける授業予定	骨盤帯周辺			
第3回	演習形式	授業を通じての到達目標	内側上顆・外側上顆・内転筋結節・脛骨粗面・腓骨頭の触察	公認アスレティックトレーナー養成テキスト第1章「運動器の解剖と機能」	解剖学の復習	
		各コマにおける授業予定	膝関節周辺			
第4回	演習形式	授業を通じての到達目標	内側上顆・外側上顆・内転筋結節・脛骨粗面・腓骨頭の触察	公認アスレティックトレーナー養成テキスト第1章「運動器の解剖と機能」	解剖学の復習	
		各コマにおける授業予定	膝関節周辺			
第5回	演習形式	授業を通じての到達目標	脛骨・腓骨の触察	公認アスレティックトレーナー養成テキスト第1章「運動器の解剖と機能」	解剖学の復習	
		各コマにおける授業予定	下腿			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標	外果・内果・足根骨・中足骨・足指の触察	公認アスレティックトレーナー養成テキスト第1章「運動器の解剖と機能」	解剖学の復習
		各コマにおける授業予定	足関節周辺		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標	外果・内果・足根骨・中足骨・足指の触察	公認アスレティックトレーナー養成テキスト第1章「運動器の解剖と機能」	解剖学の復習
		各コマにおける授業予定	足関節周辺		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標	下肢の触察の復習	公認アスレティックトレーナー養成テキスト第1章「運動器の解剖と機能」	解剖学の復習
		各コマにおける授業予定	下肢復習		
第9回	演習形式	授業を通じての到達目標	鎖骨・胸骨・肩甲骨・大結節・小結節・結節間溝の触察	公認アスレティックトレーナー養成テキスト第1章「運動器の解剖と機能」	解剖学の復習
		各コマにおける授業予定	肩関節周辺		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標	鎖骨・胸骨・肩甲骨・大結節・小結節・結節間溝の触察	公認アスレティックトレーナー養成テキスト第1章「運動器の解剖と機能」	解剖学の復習
		各コマにおける授業予定	肩関節周辺		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標	内側上顆・外側上顆・肘頭周辺の触察	公認アスレティックトレーナー養成テキスト第1章「運動器の解剖と機能」	解剖学の復習
		各コマにおける授業予定	肘関節周辺		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	内側上顆・外側上顆・肘頭周辺の触察	公認アスレティックトレーナー養成テキスト第1章「運動器の解剖と機能」	解剖学の復習
		各コマにおける授業予定	前腕		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標	橈骨・尺骨周辺の触察	公認アスレティックトレーナー養成テキスト第1章「運動器の解剖と機能」	解剖学の復習
		各コマにおける授業予定	手関節周辺		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	上肢の触察の復習	公認アスレティックトレーナー養成テキスト第1章「運動器の解剖と機能」	解剖学の復習
		各コマにおける授業予定	上肢復習		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	まとめ 評価	公認アスレティックトレーナー養成テキスト第1章「運動器の解剖と機能」	解剖学の復習
		各コマにおける授業予定	まとめ・評価		

2021 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツ学科		科目区分	その他	授業の方法	実習
科目名	トレーナー実習Ⅳ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	180 (6) 時間(単位)
対象学年	2年生		学期及び曜時限	前期	教室名	2校舎3階実技室
担当教員	山下 浩平	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
解剖の復習＋触察練習						
《成績評価の方法と基準》						
1. 期末評価:70% 2. 授業内課題:20% 3. グループワーク中の態度・発表:10%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
公認アスレティックトレーナー養成テキスト第1章「運動器の解剖と機能」						
《授業外における学習方法》						
解剖学の復習						
《履修に当たっての留意点》						
触察は、トレーナーとして必要な評価やコンディショニングに直結します。 解剖学の知識の確認と並行して学習していきましょう。						
授業の 方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	演習形式	授業を通じての到達目標	ASIS/PSIS/腸骨稜/仙骨/尾骨の触察	公認アスレティックトレーナー養成テキスト第1章「運動器の解剖と機能」	解剖学の復習	
		各コマにおける授業予定	骨盤帯周辺			
第2回	演習形式	授業を通じての到達目標	ASIS/PSIS/腸骨稜/仙骨/尾骨の触察	公認アスレティックトレーナー養成テキスト第1章「運動器の解剖と機能」	解剖学の復習	
		各コマにおける授業予定	骨盤帯周辺			
第3回	演習形式	授業を通じての到達目標	内側上顆・外側上顆・内転筋結節・脛骨粗面・腓骨頭の触察	公認アスレティックトレーナー養成テキスト第1章「運動器の解剖と機能」	解剖学の復習	
		各コマにおける授業予定	膝関節周辺			
第4回	演習形式	授業を通じての到達目標	内側上顆・外側上顆・内転筋結節・脛骨粗面・腓骨頭の触察	公認アスレティックトレーナー養成テキスト第1章「運動器の解剖と機能」	解剖学の復習	
		各コマにおける授業予定	膝関節周辺			
第5回	演習形式	授業を通じての到達目標	脛骨・腓骨の触察	公認アスレティックトレーナー養成テキスト第1章「運動器の解剖と機能」	解剖学の復習	
		各コマにおける授業予定	下腿			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標	外果・内果・足根骨・中足骨・足指の触察	公認アスレティックトレーナー養成テキスト第1章「運動器の解剖と機能」	解剖学の復習
		各コマにおける授業予定	足関節周辺		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標	外果・内果・足根骨・中足骨・足指の触察	公認アスレティックトレーナー養成テキスト第1章「運動器の解剖と機能」	解剖学の復習
		各コマにおける授業予定	足関節周辺		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標	下肢の触察の復習	公認アスレティックトレーナー養成テキスト第1章「運動器の解剖と機能」	解剖学の復習
		各コマにおける授業予定	下肢復習		
第9回	演習形式	授業を通じての到達目標	鎖骨・胸骨・肩甲骨・大結節・小結節・結節間溝の触察	公認アスレティックトレーナー養成テキスト第1章「運動器の解剖と機能」	解剖学の復習
		各コマにおける授業予定	肩関節周辺		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標	鎖骨・胸骨・肩甲骨・大結節・小結節・結節間溝の触察	公認アスレティックトレーナー養成テキスト第1章「運動器の解剖と機能」	解剖学の復習
		各コマにおける授業予定	肩関節周辺		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標	内側上顆・外側上顆・肘頭周辺の触察	公認アスレティックトレーナー養成テキスト第1章「運動器の解剖と機能」	解剖学の復習
		各コマにおける授業予定	肘関節周辺		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	内側上顆・外側上顆・肘頭周辺の触察	公認アスレティックトレーナー養成テキスト第1章「運動器の解剖と機能」	解剖学の復習
		各コマにおける授業予定	前腕		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標	橈骨・尺骨周辺の触察	公認アスレティックトレーナー養成テキスト第1章「運動器の解剖と機能」	解剖学の復習
		各コマにおける授業予定	手関節周辺		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	上肢の触察の復習	公認アスレティックトレーナー養成テキスト第1章「運動器の解剖と機能」	解剖学の復習
		各コマにおける授業予定	上肢復習		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	まとめ 評価	公認アスレティックトレーナー養成テキスト第1章「運動器の解剖と機能」	解剖学の復習
		各コマにおける授業予定	まとめ・評価		

2021 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツ学科		科目区分	その他	授業の方法	実習
科目名	トレーナー実習V		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	180 (6) 時間(単位)
対象学年	3年生		学期及び曜時限	前期	教室名	ATルーム、各実習現場
担当教員	中山広基	実務経験と その関連資格	日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー、はり師・きゅう師 社会人ハンドボールチームHC彦根ヘッドトレーナー4年/HCデンジャラス1年/滋賀県成年男子ハンドボール代表チームヘッドトレーナー5年/日本プライベートフットボールリーグ帯同トレーナー9年(アメリカンフットボール)/関西大学北陽高校ハンドボール部トレーナー1年			
《授業科目における学習内容》						
アスレティックトレーナー筆記試験対策(基礎科目)の問題演習と解説						
《成績評価の方法と基準》						
1. 筆記試験70% 2. 出席点20% 3. 平常点10%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
公認アスレティックトレーナー 専門科目テキスト 全巻 その他各種AT関連図書						
《授業外における学習方法》						
指定している教科書を事前に読んでおくこと。 授業内でスムーズに進行するため事前に配布された資料を確認すること。						
《履修に当たっての留意点》						
筆記試験でのポイントを中心に問題を演習し、自らすべての問題を解説出来るレベルまで習熟度を上げる。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	実習形式	授業を通じての到達目標	AT合格率の向上に向け、問題を自己解説できるようになる。	基礎科目テキスト		授業範囲を把握 必要用語を学習し 用語集の作成
		各コマにおける授業予定	第1回問題演習			
第2回	実習形式	授業を通じての到達目標	AT合格率の向上に向け、問題を自己解説できるようになる。	基礎科目テキスト		授業範囲を把握 必要用語を学習し 用語集の作成
		各コマにおける授業予定	第1回シャッフル問題実施と採点、第2回問題解説			
第3回	実習形式	授業を通じての到達目標	AT合格率の向上に向け、問題を自己解説できるようになる。	基礎科目テキスト		授業範囲を把握 必要用語を学習し 用語集の作成
		各コマにおける授業予定	第2回シャッフル問題実施と採点、第3回問題解説			
第4回	実習形式	授業を通じての到達目標	AT合格率の向上に向け、問題を自己解説できるようになる。	基礎科目テキスト		授業範囲を把握 必要用語を学習し 用語集の作成
		各コマにおける授業予定	第3回シャッフル問題実施と採点、第4回問題解説			
第5回	実習形式	授業を通じての到達目標	AT合格率の向上に向け、問題を自己解説できるようになる。	基礎科目テキスト		授業範囲を把握 必要用語を学習し 用語集の作成
		各コマにおける授業予定	第4回シャッフル問題実施と採点、第5回問題解説			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	実習形式	授業を通じての到達目標	AT合格率の向上に向け、問題を自己解説できるようになる。	基礎科目テキスト	授業範囲を把握 必要用語を学習し 用語集の作成
		各コマにおける授業予定	第5回シャッフル問題実施と採点、第6回問題解説		
第7回	実習形式	授業を通じての到達目標	AT合格率の向上に向け、問題を自己解説できるようになる。	基礎科目テキスト	授業範囲を把握 必要用語を学習し 用語集の作成
		各コマにおける授業予定	第6回シャッフル問題実施と採点、第7回問題解説		
第8回	実習形式	授業を通じての到達目標	AT合格率の向上に向け、問題を自己解説できるようになる。	基礎科目テキスト	授業範囲を把握 必要用語を学習し 用語集の作成
		各コマにおける授業予定	第7回シャッフル問題実施と採点、第8回問題解説		
第9回	実習形式	授業を通じての到達目標	AT合格率の向上に向け、問題を自己解説できるようになる。	基礎科目テキスト	授業範囲を把握 必要用語を学習し 用語集の作成
		各コマにおける授業予定	第8回シャッフル問題実施と採点、第9回問題解説		
第10回	実習形式	授業を通じての到達目標	AT合格率の向上に向け、問題を自己解説できるようになる。	基礎科目テキスト	授業範囲を把握 必要用語を学習し 用語集の作成
		各コマにおける授業予定	第9回シャッフル問題実施と採点、第10回問題解説		
第11回	実習形式	授業を通じての到達目標	AT合格率の向上に向け、問題を自己解説できるようになる。	基礎科目テキスト	授業範囲を把握 必要用語を学習し 用語集の作成
		各コマにおける授業予定	第10回シャッフル問題実施と採点、第11回問題解説		
第12回	実習形式	授業を通じての到達目標	AT合格率の向上に向け、問題を自己解説できるようになる。	基礎科目テキスト	授業範囲を把握 必要用語を学習し 用語集の作成
		各コマにおける授業予定	第11回シャッフル問題実施と採点、第12回問題解説		
第13回	実習形式	授業を通じての到達目標	AT合格率の向上に向け、問題を自己解説できるようになる。	基礎科目テキスト	授業範囲を把握 必要用語を学習し 用語集の作成
		各コマにおける授業予定	第12回シャッフル問題実施と採点、第13回問題解説		
第14回	実習形式	授業を通じての到達目標	AT合格率の向上に向け、問題を自己解説できるようになる。	基礎科目テキスト	授業範囲を把握 必要用語を学習し 用語集の作成
		各コマにおける授業予定	第13回シャッフル問題実施と採点、第14回問題解説		
第15回	実習形式	授業を通じての到達目標	AT合格率の向上に向け、問題を自己解説できるようになる。	基礎科目テキスト	授業範囲を把握 必要用語を学習し 用語集の作成
		各コマにおける授業予定	各回要点のまとめと総復習		

2021 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツ学科		科目区分	その他	授業の方法	実習
科目名	トレーナー実習VI		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	180 (6) 時間(単位)
対象学年	3年生		学期及び曜時限	後期	教室名	各実習現場
担当教員	中山広基	実務経験とその関連資格	日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー、はり師・きゅう師 社会人ハンドボールチームHC彦根ヘッドトレーナー4年/HCデンジャラス1年/滋賀県成年男子ハンドボール代表チームヘッドトレーナー5年/日本プライベートフットボールリーグ帯同トレーナー9年(アメリカンフットボール)/関西大学北陽高校ハンドボール部トレーナー1年			
《授業科目における学習内容》						
スポーツ現場などでの実習を通じ、学習してきた内容の活用法を学び、アスレティックトレーナーとしての職業訓練とする。また、カンファレンスを通じて問題点を解決し、学んだ事柄を守秘義務に反しない範囲で共有する。						
《成績評価の方法と基準》						
1. 筆記70% 2. 出席20% 3. 平常点10%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
公認アスレティックトレーナー 専門科目テキスト 全巻 その他各種AT関連図書						
《授業外における学習方法》						
問題演習と教科書の熟読						
《履修に当たっての留意点》						
客観式問題を解く際のポイントは「自らの知識」が「問題文を解く際に通用する」かどうかです。スポーツ現場で使える知識を身につけることを前提に徹底的に学びこみましょう。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	実習形式	授業を通じての到達目標	アスレティックトレーナー客観式試験突破に必要な知識を深め定着させる。解く力、読む力を養成する。	トレーナーキットなど 評価やリハビリに必要な機材 各種教科書及び参考図書	実習前学習 実習報告書作成	
		各コマにおける授業予定	応用科目問題演習と解答解説			
第2回	実習形式	授業を通じての到達目標	アスレティックトレーナー客観式試験突破に必要な知識を深め定着させる。解く力、読む力を養成する。	トレーナーキットなど 評価やリハビリに必要な機材 各種教科書及び参考図書	実習前学習 実習報告書作成	
		各コマにおける授業予定	応用科目問題演習と解答解説			
第3回	実習形式	授業を通じての到達目標	アスレティックトレーナー客観式試験突破に必要な知識を深め定着させる。解く力、読む力を養成する。	トレーナーキットなど 評価やリハビリに必要な機材 各種教科書及び参考図書	実習前学習 実習報告書作成	
		各コマにおける授業予定	応用科目問題演習と解答解説			
第4回	実習形式	授業を通じての到達目標	アスレティックトレーナー客観式試験突破に必要な知識を深め定着させる。解く力、読む力を養成する。	トレーナーキットなど 評価やリハビリに必要な機材 各種教科書及び参考図書	実習前学習 実習報告書作成	
		各コマにおける授業予定	応用科目問題演習と解答解説			
第5回	実習形式	授業を通じての到達目標	アスレティックトレーナー客観式試験突破に必要な知識を深め定着させる。解く力、読む力を養成する。	トレーナーキットなど 評価やリハビリに必要な機材 各種教科書及び参考図書	実習前学習 実習報告書作成	
		各コマにおける授業予定	応用科目問題演習と解答解説			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	実習形式	授業を通じての到達目標	アスレティックトレーナー客観式試験突破に必要な知識を深め定着させる。解く力、読む力を養成する。	トレーナーキットなど 評価やリハビリに必要な機材 各種教科書及び参考図書	実習前学習 実習報告書作成
		各コマにおける授業予定	応用科目問題演習と解答解説		
第7回	実習形式	授業を通じての到達目標	アスレティックトレーナー客観式試験突破に必要な知識を深め定着させる。解く力、読む力を養成する。	トレーナーキットなど 評価やリハビリに必要な機材 各種教科書及び参考図書	実習前学習 実習報告書作成
		各コマにおける授業予定	応用科目問題演習と解答解説		
第8回	実習形式	授業を通じての到達目標	アスレティックトレーナー客観式試験突破に必要な知識を深め定着させる。解く力、読む力を養成する。	トレーナーキットなど 評価やリハビリに必要な機材 各種教科書及び参考図書	実習前学習 実習報告書作成
		各コマにおける授業予定	応用科目問題演習と解答解説		
第9回	実習形式	授業を通じての到達目標	アスレティックトレーナー客観式試験突破に必要な知識を深め定着させる。解く力、読む力を養成する。	トレーナーキットなど 評価やリハビリに必要な機材 各種教科書及び参考図書	実習前学習 実習報告書作成
		各コマにおける授業予定	応用科目問題演習と解答解説		
第10回	実習形式	授業を通じての到達目標	アスレティックトレーナー客観式試験突破に必要な知識を深め定着させる。解く力、読む力を養成する。	トレーナーキットなど 評価やリハビリに必要な機材 各種教科書及び参考図書	実習前学習 実習報告書作成
		各コマにおける授業予定	応用科目問題演習と解答解説		
第11回	実習形式	授業を通じての到達目標	アスレティックトレーナー客観式試験突破に必要な知識を深め定着させる。解く力、読む力を養成する。	トレーナーキットなど 評価やリハビリに必要な機材 各種教科書及び参考図書	実習前学習 実習報告書作成
		各コマにおける授業予定	応用科目問題演習と解答解説		
第12回	実習形式	授業を通じての到達目標	アスレティックトレーナー客観式試験突破に必要な知識を深め定着させる。解く力、読む力を養成する。	トレーナーキットなど 評価やリハビリに必要な機材 各種教科書及び参考図書	実習前学習 実習報告書作成
		各コマにおける授業予定	応用科目問題演習と解答解説		
第13回	実習形式	授業を通じての到達目標	アスレティックトレーナー客観式試験突破に必要な知識を深め定着させる。解く力、読む力を養成する。	トレーナーキットなど 評価やリハビリに必要な機材 各種教科書及び参考図書	実習前学習 実習報告書作成
		各コマにおける授業予定	応用科目問題演習と解答解説		
第14回	実習形式	授業を通じての到達目標	アスレティックトレーナー客観式試験突破に必要な知識を深め定着させる。解く力、読む力を養成する。	トレーナーキットなど 評価やリハビリに必要な機材 各種教科書及び参考図書	実習前学習 実習報告書作成
		各コマにおける授業予定	応用科目問題演習と解答解説		
第15回	実習形式	授業を通じての到達目標	アスレティックトレーナー客観式試験突破に必要な知識を深め定着させる。解く力、読む力を養成する。	トレーナーキットなど 評価やリハビリに必要な機材 各種教科書及び参考図書	実習前学習 実習報告書作成
		各コマにおける授業予定	応用科目問題演習と解答解説		